
僕の駄文

明音みづき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の駄文

【Zコード】

N31760

【作者名】

明音みずき

【あらすじ】

僕は なんとなく 息を吸って 吐いて

当たり前のようこ 生きて。

これで良いのかと 思つけれど。 別に 答えがほしいわけじゃなくて

なんだかなーーと空なんて見上げるわけです。

これが僕の日常だ。

でも 日常が「非」日常に変わるのは

案外 容易い

。

ch·i 小川 秋(オガワ シュウ)

ch·i 小川 秋(オガワ シュウ)

ああ。 。 。 朝 かあ。 。

5:30 AM

「おはよ。 世界。」

いつからだろ? 朝起きてからの挨拶。

僕 と 世界の はじまり。

ボケーっと見回す 普段と代わり映えしない部屋。

「ああー、 だりいーーー。」

家の中は 真っ暗。

朝は、僕が 一番最初に 目を覚ます。

家族の喧騒から 逃れる 唯一の時間。

一通りの 朝の 作業を終え

だらだら タイム。

朝の情報番組では 今日も くだらない ニュースが

垂れ流されている。

眠気眼に映る

7：20AM

「あつ、やばい。。。」

今日から 新学期。

僕は 高校2年生になった。

生暖かい 風が 今年も

この 季節の訪れを 僕に 伝える。。。

僕は 春 が 苦手だ。

何かが 始まるような ワクワクした 空気。

全てが 新しく 生まれ変われるような 空気。

あと 花粉。

僕にとって 不都合な 事ばっかり。

自転車で 約30分。

”望み丘高校500m先 右折”

派手な 看板。

ふざけた名前。

もっと素敵なのはなかつたの？

これが 僕の 通っている 高校である。

「あ・っ・・・」

点滅が終了した信号。

見逃した。 。 。 。 僕の 悪い癖。

考え事をすると よく 起きる現象である。

「まあ、 いつか。 。 。 ふう~。」

空を 見上げる。

日差しの割りに 肌寒い。

見かけ倒しですかー太陽さーん

ドンッー！

「お前、 朝から何疲れてんだよ? じいさんなの?」

追突の衝撃と、 聞き覚えのある声に 振り返る。

「ん~? やつぱり。冬治、おはよ。いやつ、むしろ老人なら元氣で
しょ、朝は!」

「はあ~? 真面目に返してんじゃねえーよ……だから、信号見逃す
んだよ。ばーか。」

「なんだよー。違う、あれはワザと渡らなかつたんだよ? わかつて
ないなあー。」

「ワザとつて。。。お前、無理あるだろ! 上見てたし。どーせ、朝
から変な事考えてたんだろ?」

「なつ、冬治と違つて、僕は真面目だからねー。変な」となんて考
えてませんー」

「はー、はー、お先にー困つたちやんの秋ぐーーん!」

再び、点滅し始める 信号。 一 ヤツと振り返り僕を 置いて去つ
て行く 冬治

「えつーーうふつと。。待つ。。。」

キイー——————! デンツ——————!

僕は その時 空を 飛んだのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3176o/>

僕の駄文

2010年10月15日08時20分発行